

穂やけ症に強い黄色グラジオラス新品種「ひたち11号」(仮称)

農業総合センター生物工学研究所・園芸研究所

【研究の概要】

本県のグラジオラス切り花は、夏期高温期を含む作型で主に生産されており、高温や強日射で花穂周縁部が焼ける「穂やけ症」が発生し、出荷量や品質が低下することが問題となっています。特に黄色品種では、既存品種の中に穂やけ症に強い品種が少ないことから、夏期の出荷が困難な状況です。そこで、穂やけ症の発生が少ない特性を持つ県育成品種「プリンセスサマーイエロー」から生じた花色突然変異体を選抜し、穂やけ症に強い黄色グラジオラス新品種を育成しました。

【研究内容】

元品種「プリンセスサマーイエロー(以下、「PSY」)」は、花色が黄色と明橙赤色の複色品種であり、穂やけ症の発生が少ない特性を有します。2007年に、「PSY」から生じた花色突然変異体を発見し、2018年に「ひたち11号」としました。本系統について夏期における栽培適性や増殖性を調査し、経済栽培における優良性を調査しました。



【研究成果】

- ① 「ひたち11号」の特性
 - ・花色は黄・薄黄の単色です。
 - ・切花長や小花数等は「PSY」と同等です。
 - ・球根増殖性に優れ、安定した種苗供給が可能です。
 - ・夏期高温期における穂やけ症の発生は、「バナナラマ(既存黄色品種)」と比べて少なく、「PSY」と同等です。
- ② 生産者、市場関係者等の評価
 - ・生産者や関係機関等からは、「バナナラマ」と比較し、「安定した栽培が可能」「暑い時期に出せる黄色単色」等の理由で高評価を得ました。
 - ・市場関係者は「花色」および「花形」について高く評価し、期待される用途としては、「生け花」や「フラワーアレンジメント」との回答を得ました。



穂やけ症発生程度の差(20/8/12)

※矢印は発生部を示す



「ひたち11号」の花姿

【将来の展望】黄色品種全体の約50%のシェア見込み&所得向上

- ・既存の黄色品種の年間需要量は約7.8~16.2万球ですが、「ひたち11号」はこれまで出荷できなかった夏期を中心に、新たに年間約10万球の利用が見込まれます。
- ・穂やけ症が出にくい品種を導入することで、等級規格の低下を防ぎ、10a当たり37万円の粗収入向上が期待されます。

品種	出荷量(色の濃淡は出荷量の多少)					利用球数
	6月	7月	8月	9月	10月	
ひたち11号	■	■	■	■	■	約10万球(見込み)
既存の黄色品種	■	■	■	■	■	約7.8~16.2万球